

1月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回2月のてがたんは2月10日(土)で、テーマは「シジュウカラと愉快的仲間たち」です。

## 1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前→けやき広場→旧水生植物園
- 観察日時と天気：2018年1月13日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：39名(大人33名、小学生以下6名)
- 市民スタッフ：8名(蒲田知子、伊東茂子、石原直子、大嶽若緒、木村稔、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

## 観察した生き物の記録(下見を含む)

### 【鳥類】

カモ科：オオハクチョウ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ/ハト科：キジバト/クイナ科：バン、オオバン/ウ科：カワウ/サギ科：ゴイサギ\*、アオサギ、ダイサギ、コサギ/シギ科：タシギ/カモメ科：ユリカモメ、ニシセグロカモメ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/エナガ科：エナガ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ツグミ科：ツグミ/ミソサザイ科：ミソサザイ\*/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ\*、アオジ、オオジュリン

家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

\*は、下見だけで見られたもの。

### 【哺乳類】

ジネズミの仲間(死体)

### 【昆虫】

カマキリ目：オオカマキリ(卵)、カマキリ(卵)/チョウ目：オオミノガ(みのの殻)、ヒロヘリアオイラガ(まゆ)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、アオカメムシの仲間(モズのはやにえ)

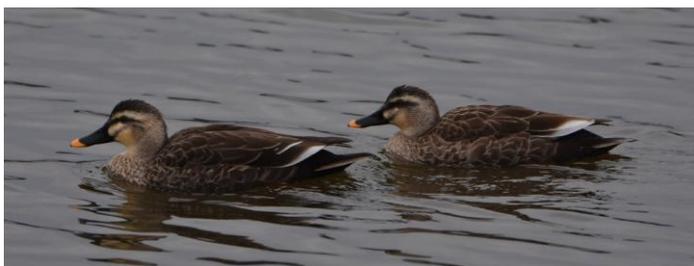
### 【花】

カタバミ科：カタバミ/シソ科：ホトケノザ/ツバキ科：サザンカ/アブラナ科：ナズナ/オオバコ科：オオイヌノフグリ

### 【木の実・草の実】

アサ科：エノキ/ウルシ科：ハゼノキ/アカネ科：ヘクソカズラ/スイカズラ科：ハコネウツギ、タニウツギ/クスノキ科：シロダモ/モクセイ科：トウネズミモチ/バラ科：ピラカンサ/メギ科：ナンテン

# 観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「もっと知りたいカモのこと」でした。1年中見られるカモの仲間であるカルガモについて掘り下げて観察しました。また、手賀沼のいろいろな冬鳥をじっくり観察しました。



今月の案内人 蒲田知子さん



① 鳴きながら水面を低く飛んで行ったカワセミ



③ 雌雄で羽色が異なるオナガガモ



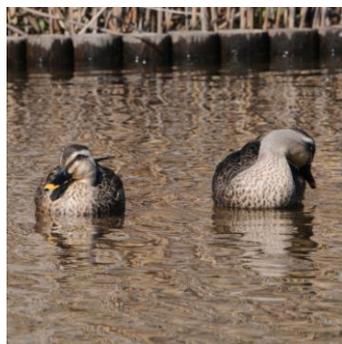
④ マコモの根を掘って食べるコバクチョウ



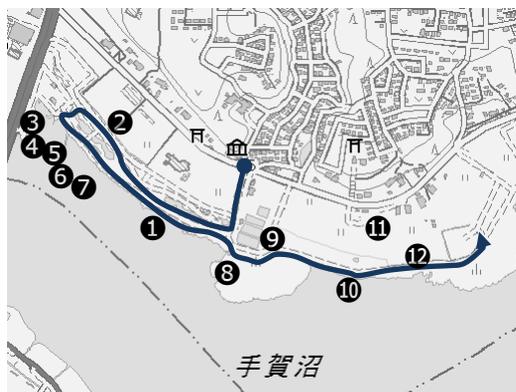
⑤ マコモの地下茎を食べるオオバン



⑦ 浮いていたフナの死体を食べていたニシセグロカモメ



② ミニ手賀沼で休むカルガモのつがい。カルガモをはじめとする水面採食カモは、昼間は休息し、主に夜に餌をとりまわす。



歩いたルートと観察した生き物



⑥ 漁協前の浅瀬で魚を捕っていたダイサギ（左）とコサギ（右）。3cmほどの小さな魚を次々と捕まえていた。



⑧ カイガラムシの仲間を食べるオオジュリン



⑨ モズのはやにえにされたアオカメムシの仲間



⑩ 岸で2羽で休んでいたオオハクチョウ



⑪ 湿った水田で採食していたタシギ



⑫ 遊歩道でひかれていたジネズミの仲間

## 今月の鳥 カルガモ カモ目カモ科

カルガモは、嘴が黒く、先端に黄色い斑があるカモの仲間です。手賀沼には10種以上のカモの仲間が渡来しますが、1年中見られて繁殖するのはカルガモだけです。他のカモの仲間は雄と雌で羽の色が異なるものが多いのですが、カルガモはほとんど同じ色です。近くで観察できれば、全体の大きさや、尾羽の付け根の羽の色に注目して見分けることができます。手賀沼のカルガモの数は、夏では30-40羽くらいですが、冬には数百羽が見られるようになるので、他の地域から渡ってくるものが多いようです。冬の間からつがい形成をはじめ、雄と雌が向かい合って首を上下に動かし、交尾に至る求愛行動をあちこちで観察することができます。



黒い嘴の黄色い斑がトレードマーク